



2021年2月に稼働を始めたバイオマス発電設備（定格出力16,800kW・村松町）。建築廃材やRPF、廃タイヤが燃料。

愛媛製紙株式会社

「人と環境とのより良い関係を創造する」

「エ」

エネルギーの使用の合理化等に関する法律「いわゆる「省エネ法」により、当社のように年間のエネルギー使用量が多い事業者は、毎年エネルギーの使用状況等を経済産業省に報告する義務があります。そして、省エネの結果に応じて3つのクラスに分けられ、優良事業者はSクラスとして同省のホームページで公表されます。当社はこの制度が開始されてから現在まで、Sクラスを維持しています。

当社が使用するエネルギーの多くは、石炭や石油などの化石燃料を使った発電設備から供給されています。そのため、省エネを続けていくためには、どこかでエネルギーを転換することが必要でした。

そのような中、政府が発表した「カーボンニュート

ラル宣言」は、エネルギーの転換や脱炭素に対する私たちの意識を変える、大きな追い風となりました。

2021年に完成したバイオマス発電設備は、省エネへの貢献はもちろん、当社のCO₂排出量を2013年比で30%削減するなど、カーボンニュートラルに大きく貢献しました。

「製」

紙産業は「循環型産業」と言われるほど、資源の再利用に長けています。当社で製造している段ボール原紙の古紙配合率は、99%を超えていますし、バイオマス発電設備の燃料のひとつであるRPF（廃棄物固形燃料）の一部には、当社が古紙を再生する際に発生した、プラスチック類や繊維くずが使われています。そして、近年製紙各社が製品化に取り組んでいるセ

ルロースナノファイバー（CNF）について当社では、これまで廃棄されていた柑橘の皮を原料とすることに成功しました。

「柑」

橘王国愛媛では、年間約5千トにも及ぶ柑橘の皮が廃棄されています。当社が愛媛県や愛媛大学など「オール愛媛」で開発・製品化した「柑橘由来のCNF」は、柑橘の皮を焼却処分する際に発生するCO₂を削減できる、環境にも人にも優しい新たな天然材料です。

「人」

と環境とのより良い関係を創造する」は、当社グループの経営理念です。今後もグループ全体、そしてオール愛媛で、資源の循環とカーボンニュートラルに取り組んでまいります。

この人に聞きました



愛媛製紙株式会社
取締役 工場次長
熊本 武夫 さん